

令和5年11月

魚津市定例記者会見



日時:令和5年10月31日(火) 午後1時30分～午後1時50分

場所:市役所 第一会議室

報道出席者:北日本新聞社、北陸中日新聞社、富山新聞社、読売新聞、朝日新聞、

NHK富山放送局、富山テレビ放送

新川インフォメーションセンター、新川コミュニティ放送

市当局出席者:市長、財政課長、企画部次長(情報広報課長)

【市長からの発表事項】

1. 令和6年度魚津市行政経営方針・魚津市中期財政計画

(企画政策課・財政課)

資料に基づき説明。

2. 台湾における提携・交流自治体調査報告会

(商工観光課)

魚津市では、平成27年度からインバウンドを主体とした取り組みを進めてきている。新型コロナ回復後の観光需要の取込み、国際交流を視点とした取り組みを進めていくため、台湾における交流・提携の可能性のある都市や自治体の調査を実施している。この度、資料のとおり報告会、講演会を開催する。提携先については、今後しっかり検討していく。

3. 魚津の農林水産業 体験・応援プロジェクト「親子体験会」

(農林水産課)

魚津の農林水産業を親子で学ぶ「親子体験会」を開催するが、11月は、「やさい(レンコン)」「さかな」、「田んぼ」、「くだもの(産地)」の4つのコースで資料のとおり体験会を行う。

4. ポートレート撮影会(※SODO)

(地域協働課)

2016年に発足した、魚津市と魚津に住む女性たちによるプロジェクトチーム「※SODO(コメソウドウ)」は、これまでセミナーの開催、冊子「ウオヅとワタシ」の発行などを通して、活動を展開してきた。今年度末をもってチームとしての役目を終えることになり、新たなステージでまた活躍されると考えている。チーム最後の活動として、ポートレート撮影会を実施。写真集完成の際にはプレスリリースする予定。

5. UOZU婚活 journey vol.2

(地域協働課)

都市部在住で地方移住に興味を持つ独身女性と、魚津の独身男性の出会いを創出するイベント「婚活ジャーニー」を実施する。県外の女性が参加する婚活イベントは、昨年度に続き、2回目の実施。7月から実行委員会を開催し、参加男性にイベント内容を企画していただいていた。イベント開催のみに終わる事なく、アフターフォローとして参加者のコミュニティを設けることとしており、継続的な交流を期待したい。

【質疑応答の内容】

○「行政経営方針」「中期財政計画」について

《記者からの質問》

水族館の建て替えがあるとしたらこの計画（R11年度）以降ということになるのか。

《回答》

今のところ、この計画に盛り込むまでの熟度でないため、盛り込んでいない。整備手法等によって1年でも早くなればよいとは思っている。

《記者からの質問》

財政計画に関して、資材高騰に対しての見込みはどのように考えているのか。

《回答》

資材高騰は変動要素として考えられるが、来年度のコミュニティセンター等の設計規模などが決まっていないため、規模等が確定したのち、資材高騰の影響が出てくる。現段階で資材高騰分については、計画に織り込んでいない。

《記者からの質問》

子どもまんなか社会に関して。フリースクールについてどのように考えているのか。不登校率が高いと聞いている。

《回答》

教育会議でも不登校の話題が上がっていた。まずは、学校の中での子どもの居場所を確保したい。多様な選択肢のひとつとして、フリースクールもあると考えている。子どものニーズや近隣のフリースクール状況を確認しながら検討を進めたい。

《記者からの質問》

重点項目(2)「地域が主役になって進めるまちづくりの施策の強化」について詳細を説明していただきたい。

《回答》

どのような事業を進めていくかはこれからだが、おかれている状況については、一人暮らしの高齢者宅が多く、コミュニティの力が衰えていく。ニーズにどう応えていくか、行政と地域の役割を一緒に考えていきたい。タウンミーティングでもこ

のような話題にふれている。そういった視点で強化していきたい。

○「コミュニティセンター化」について

《記者からの質問》

コミュニティセンター化は、旧小学校跡地の改修とイコールなのか。地域に選択肢はあるのか。ハード事業については各地域で違うのか。地域の中で利益活動を伴うものもあるとハードルが上がるのではないか。箱はほしいが、コミュニティセンター活動をしなければならないとなると、地域の方は大変なのではないか。市の目指すところは。

《回答》

必ずしも、小学校跡地を利用、ということではない。小学校閉校後の学校跡地をどう利用するのかは市長就任以来、ずっと課題として認識している。コミュニティの場としてどのように活用していくのか地域と協議を続けている。

地域で活動の幅を広げていただき、地域資源を生かした活動によって資金が入ってくるようなら、なおいいが、これは強制ではないとご説明している。コミュニティセンター活動によってみなさんが触れ合う機会が増えることが重要だと考えている。地域のみなさんが一緒になって何かを作り出す、つながりの輪を広げていただきたい。その受け皿がコミュニティセンターだと考えている。一斉に始めてほしいともお話ししていないので、地域への押し付けにならないよう進めていきたい。